

化土

今回ご紹介の「化土」という言葉は、浄土真宗を理解する上で大切な言葉です。十二月から浄土真宗を一

から学ぶ「浄土真宗はじめの一步」の第五期がスタート

します。『観無量寿経』を学びます。第三期では『阿弥陀

経』を学びました。いずれのお経も浄土三部経といい、

浄土真宗で大切にされています。これらのお経の中に

は、阿弥陀仏の極楽浄土の様子が説かれています。

『阿弥陀経』には極楽の情景描写が細かく説かれ、

『観無量寿経』には極楽浄土や阿弥陀仏を心に想い浮か

べられるよう細かく描写がされています。そこには、宝

玉や黄金で飾られた世界や阿弥陀仏が描かれています。

そこで、疑問に思うのです。仏の世界は我々の世界の

欲望の先にあるものなのかと。親鸞聖人は、これらは、

仏が我々の合わせてわざわざ現わされた浄土であり、

方便化土である。本来はいろもかたちもない浄土（報土）

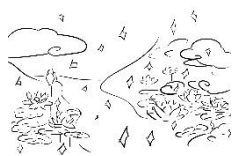
を、それでは人々は理解できないのでわざわざお立てに

なった。だからすべてののはからいを超えた

報土に気づいておくれと教えを説かれます。

先手先手の阿弥陀仏のすくいです。

『観無量寿経』を十二月から学びませんか。



子が執心を出すと
親は心配する
私が苦しいと
仏は心配する

老翁

こんなところに

仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

外道

「この外道が！」
どこかで聞いたことがある
台詞です。外道とはどん

な意味なのでしょうか。広辞苑を引いてみましょう。

一、仏教以外の教え 二、真理にそむく説、邪説 三、災難を

もたさすもの、悪魔 四、邪悪の相をあらわした仮面 五、他

人をのしっている語 六、釣りで目的の種類と違って釣れた

魚

釣りが出てくるとは思いもしませんでした。冒頭の「この外道

が！」は何番でしょうか。三か五という所ででしょうか。

さて、最初に出てきたのが仏教以外の教えです。お釈迦様が

おられた頃の仏教以外の教えを外道といい、その代表格を六師

外道と言いました。このような教えです。

・善悪の報いはない ・すべては物質の集合体で、物質自体は

不変 ・死んだ後は無 ・すべては運命 ・あるとも考えない

し、ないとも考えないと判断を保留する ・ジャイナ教

これらの中には、現代人でも同じような考えを持つ人がいるの

ではないでしょうか。「死んだら無、お

しまい」「今だけが楽しければいい」

いずれも外道です。

